

# ～安治の描いた明治～ 「東京100景」展

前編

会期：2020年9月21日(月・祝)～11月8日(日)  
会場：< GAS MUSEUM がす資料館 > ガス灯館2階「ギャラリー」

## ごあいさつ

GAS MUSEUM がす資料館では、2020年度テーマ展として、2020年9月21日(月・祝)から11月8日(日)までの期間、「～安治の描いた明治～『東京100景』」展を開催します。

元治元年(1864)に生まれた井上安治(いのうえやすじ)は、15歳で「光線画」の作品で人気を博していた小林清親(こばやしきよちか)へ入門しました。翌年の明治13年(1880)には早くも作品を発表し、以後、師の清親の作風を模倣しつつも、自身の感性で捉えた東京風景を描きました。中でも四つ切り判サイズを中心とした134点からなる一連の作品は、現在「東京真画名所図解」(とうきょうしんがめいしよずかい)と通称され、明治14年(1881)頃から亡くなる明治22年(1889)まで、井上安治の活動期ほぼ全般にわたって手がけた代表作となります。今回は134点からなる「東京真画名所図解」シリーズより100点を選び、前・後編各50点をその現在の姿を写した写真と共に展示紹介します。

GAS MUSEUM がす資料館

## 【展示解説】

学芸員 高橋 豊

(とうきょうしんがめいしよずかい)

### 井上安治「東京真画名所図解」について

井上安治(いのうえやすじ)がデビューした翌年の明治14年(1881)頃から、亡くなる明治22年(1889)頃までの、活動期ほぼ全般を通じて手がけた安治の代表する作品となります。

まとめて画帳として伝わる作品には幾つもの題名が見えますが、当時の正式な名称は判明しません。現在は「東京真画名所図解」の通称で呼ばれています。

確認されている点数は134点になり、四つ切り判サイズを中心とした小型の作品では、安治独自の構図のほか、師清親の大判作品を写した作品が多く含まれています。写した作品の多くは、大判から四つ切り判へと縮小されるのに合わせ、人物の数や配置のほか、季節や時刻を変更し、小サイズの構図と限られた色使いの中にまとめられています。

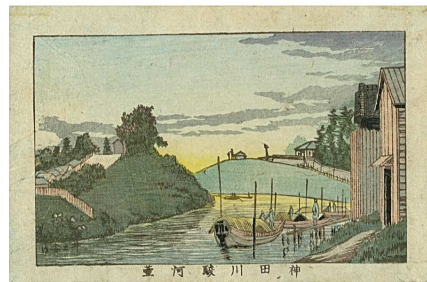
署名が記された作品もありますが、約半数は無記名で、「探景(たんけい)」「井上探景」と記されている作品は、「探景」の号を使用するようになった明治17年(1884)以降の制作と推測できます。

取り上げられた場所は、現在の赤坂付近を西端に、東は千葉県市川市、北は埼玉県川口市荒川岸辺、南は大田区海岸付近と、明治10～20年代の東京の風景を今の私たちに伝えてくれています。

## 主な展示作品



2) 東京真画名所図解 二重橋  
1887-89年(明治20-22)



7) 東京真画名所図解 神田川駿河台  
1881-89年(明治14-22)



20) 東京真画名所図解 根津神社  
1884-89年(明治17-22)



25) 東京真画名所図解 新橋ステーション夜  
1881-89年(明治14-22)



32) 東京真画名所図解 吾妻橋  
1887-89年(明治20-22)

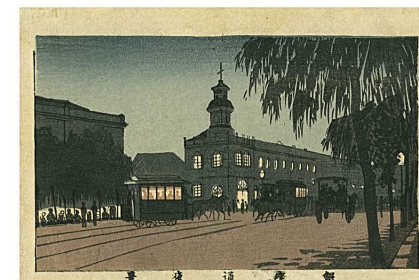
「～安治の描いた明治～『東京100景』」展 後編  
2020年11月14日(土)～12月25日(金) 開催予定

## GAS MUSEUM がす資料館について

「GAS MUSEUM がす資料館」は、日本のガス事業に関する貴重な資料を展示・収蔵するために、昭和42年(1967)に東京・小平市に開設され、五十年以上に渡り、この地で展示活動をおこなっています。煉瓦造りの2棟の展示棟は、明治42年(1909)に建てられた、東京ガス本郷出張所を移築復元した「ガス灯館」と、明治45年(1912)に建てられた、東京ガス千住工場計量器室を移築復元した「くらし館」になります。ガス灯をはじめとした様々なガス事業に関わる資料のほか、明治錦絵を中心とした版画作品は、当時の風景や風俗を知る映像資料として収蔵しております。所蔵している版画作品は、当館ホームページの以下のアドレスよりご覧いただけます。

「錦絵  
検索  
HP」

<https://www.gasmuseum.jp/mnw/>



41) 東京真画名所図解 銀座通夜景  
1882-89年(明治15-22)



48) 東京真画名所図解 瀧ノ川紅葉  
1881-89年(明治14-22)

## おもな参考文献

- 井上安治 東京真画名所図解 解題  
安藤鶴夫・吉田漱 平凡社 1968年  
色刷 明治東京名所絵 井上安治画  
木下龍也編 角川書店 1981年
- 清親と安治 光線画の時代  
山口県立萩美術館・浦上記念館 2012年
- 井上安治生誕一五〇年記念 絵師たちの視線  
茅ヶ崎市美術館 2014年
- 井上安治 版画集「明治の東京風景」  
阿部出版(株) 2018年
- 中央区の橋・橋詰広場 中央区委員会 1998年
- 図版 明治の地図で見る 鹿鳴館時代の東京 (株) 学習研究社 2007年
- 東京の橋 石川悌二 (株) 新人物往来社 1977年

# 井上安治「東京真画名所図解」シリーズ

## 展示作品地図 前編

作品名	制作年
1 御城二重橋ノ景	◎
2 二重橋	☆
3 浅草奥山図	●
4 浅草観音	◎
5 両国橋焼跡	◎
6 両国大火濱町 川岸ニテ写ス	◎
7 神田川駿河台	◎
8 水道橋	◎
9 萬代橋雨ノ景	◎
10 京橋	◎
11 鎧橋之景	◎
12 隅田川夜景	◎
13 本所枕橋ツメ	◎
14 新富座	◎
15 千住ラシヤ製造場	◎
16 本所富士見の渡し	◎
17 赤坂仮皇居	△
18 浅草田甫太郎稲荷	◎
19 谷中天王寺	◎
20 根津神社	△
21 清水堂	△
22 湯島台白聖堂ノ月	◎
23 上野三橋	□
24 上野動物園	□
25 新橋ステーション夜	◎



作品名	制作年
26 高輪鉄道	◎
27 赤羽根橋景	◎
28 汐留	△
29 芝口ヨリ虎ノ門	◎
30 柳橋夜景	◎
31 百本杭ノ三日月	◎
32 吾妻橋	☆
33 永代遠景	△
34 橋場ノ渡シ	◎
35 梅若神社ノ雨	◎
36 元柳橋	☆
37 蔵前通	◎
38 柳島妙見	◎
39 四日市	◎
40 日本橋	△
41 銀座通夜景	□
42 桜田参謀本部	◎
43 竹橋内	◎
44 筋違通夜景	◎
45 新大橋	◎
46 今戸橋雪	◎
47 小梅枕橋	△
48 滝ノ川紅葉	◎
49 道灌山	◎
50 大森海	◎

◎:1881-89年(明治14-22)  
 □:1882-89年(明治15-22)  
 △:1884-89年(明治17-22)  
 ☆:1887-89年(明治20-22)  
 ●:1888-89年(明治21-22)